

2012年春闘主な行動  
1月6日主要駅頭宣伝  
1月17日経団連包囲行動  
1月20日自治体キャラバン

# 練馬労連

発行所：練馬区労働組合総連合  
練馬区中村北1-6-2  
東京土建練馬支部内  
電話03-3825-7146  
fax 03-3825-7117

## 原発ゼロ！ 社会保障の充実を求めて

### 区民要求 実現大集会

11・29(火) 21団体

220人の参加によつて、区民要求実現大集会が練馬区民センター小ホールで行われました。

全体の司会は、新婦人の宮前さん、東京芸術座の森さんが、息のあったコンビで進めました。

開会の挨拶は、区労働

協議長の高橋さん、基

調報告は、練馬春闘共闘の事務局長の伊藤さんが行ないました。その後、

メインのパネルディスカッ

ションが行なわれました。

司会は練馬区労協の松澤

正一氏が行いました。

第一のパネラーは城北

法律事務所の弁護士・菊



池絃先生です。「東日本大震災と東電福島第一原発」と題して、私たちに、更なる団結と結集を求めました。

### 復活は 循環型経済で

第二のパネラーは立教大学専任講師で、2011年練馬区長候補・古賀義弘先生です。「地域の活性化は地域循環型経済で」のテーマで話されました。先生は、身近な商店街を例に出され、現在のこの閉塞した日本

### 職人は死なず



本のためには、地域社会の中、即ちこの練馬区の中でお金を循環させる事が重要であると語り、現在、公共事業等などの多くは、区外の大手大企業に受注させているためお金は区外に出て行く、これを区内の事業者を受注させる

第二のパネラーは中央大学経済学部教授・八幡一秀先生です。先生は、「商店街復興とまちづくり」というテーマで、ヨーロッパの中小企業に対する基本的考え方はEU小企業憲章(2000年6月にEU各国で宣言)にもとづいており、EU各国の政策は、この政策の基本理念である、「小企業はヨーロッパ経済の背骨である」という考え方のもと、「まず小企業のことを考えろ」を理念としている。そのため中小企業の物づくり企業は廃れることなく発展している」と語りました。

その後、気分を一転し、ゆづたさんの心温まるギター演奏と唄と続きました。続いて、闘いの報告と、取り組みについて各単組より、区職の小林さん、生活と健康を守る会の栗原さん、東京土建練馬支部の鎌田さん、東映動画労組の千田さんがスピーチをし、福祉保育労向山保育園の飯岡さんの原稿を司会者の森さんが読み上げました。最後に、掛端議長が「がんばろう」を三唱して集会は大

### 真実を問う

「原発の事故」というテーマで、先生は、安全神話の誕生は、国と東電が、原発が危険だという真実を述べるものを日常的嫌がらせによつて差別排除し、無責任体制の元が創られたことを示され、原発が撤廃されるためには、真実に向き合う自由な国民的論議が、そのような世論が必要不可欠である、と述べました。更に、東日本大震災時の日本人の対応を見て、「立派な国民のうえに無能な国家が君臨している」と世界から言われていることを紹

「原発の事故」というテーマで、先生は、安全神話の誕生は、国と東電が、原発が危険だという真実を述べるものを日常的嫌がらせによつて差別排除し、無責任体制の元が創られたことを示され、原発が撤廃されるためには、真実に向き合う自由な国民的論議が、そのような世論が必要不可欠である、と述べました。更に、東日本大震災時の日本人の対応を見て、「立派な国民のうえに無能な国家が君臨している」と世界から言われていることを紹

「原発の事故」というテーマで、先生は、安全神話の誕生は、国と東電が、原発が危険だという真実を述べるものを日常的嫌がらせによつて差別排除し、無責任体制の元が創られたことを示され、原発が撤廃されるためには、真実に向き合う自由な国民的論議が、そのような世論が必要不可欠である、と述べました。更に、東日本大震災時の日本人の対応を見て、「立派な国民のうえに無能な国家が君臨している」と世界から言われていることを紹

**練馬労連新春のつどい**  
 日時：1月18日(水) 18:30~  
 場所：東京土建練馬支部会館  
 会費：男2000円 女1000円  
 たくさんの組合、組合員のご参加を心よりお待ちしております。

11.27 さよなら原発 東京北部ラリー & パレード



青空の広がる暖かい日差しのもと文京区礪川公園で原発反対の集会が行なわれました。今回の取り組みは、初めて北部5区が協力共同して行なわれる取り組みであったためとても意義深いものがあった様に思われます。原発を無くして行くためには、これらの運動を大きく広げなければなりません。その為には協力共同は必要不可欠であるからです。

集会は一時から始まりました。トランペットの演奏を皮切りに荒馬座の和太鼓で会場が盛り上がり、リレートークの始まりです。元福島県知事の佐藤栄作さん、福島県民連会長の亀田英俊さん、練馬の子育てママを代表して宮崎みどりさんと豊島区のママ、原水爆禁止日本国民会議の横山松栄さん、「福島避難母子の会IN関東」からは、深川美子さん、富塚千秋さんが、脱原発世界会議からは実行委員長のピースボート吉岡達也さんが、参加しました。取り分け印象深かったのは、やはり、福島から避難してきて生活をしているママ達の話です。自分達の故郷を原発によって汚染されてしまったことの悲しみは勿論のこと、購入したばかりのマイホームがそのままになっていいるばかりでなく、ローンはそのまま残り、自分達はそこに住むことが出来ないこの理不尽さ。子ども達を外に出られるのは、1日1時間だけだといえます。国と東電は何もしない。母親たちの怒りと憤りはピークに達し、その怒り

に疲れている様にさへ感じるほどでした。その後決議文が読み上げられました。決議文では、事故後8ヶ月を過ぎても未だ、事故が収束していないこと、10万人に達する福島の人々が故郷を追われていること、など、福島の実状を伝え、東電と国の理不尽極まりない対応について述べると共に、その賠償を速やかに行なう様を請し、また、除染についても早急にやるように述べ、最後に自然エネルギーへの転換を求め、決議しました。その後、パレードへと移りました。礪川公園から上野の不忍池に向かっ

農業と原発は絶対に相容れない 亀田氏

した参加者は、凡そ600人、カンパも8万円以上集まりました。練馬では12団体、89人の参加です。練馬労連おとも

国民を見捨てる政府財界

10月30日、私は「なくせ！原発10・30大集会INふくしま」に参加しました。3月11日の大地震と津波で原発の安全神話はもろくも崩れました。そして、福島第1発電所の事故は想定外ではなく、紛れもない「人災」です。それも利益を優先し、安全対策を怠ってきた東京電力とそれを後押ししてきた国の責任なのです。故郷を奪われ、いつ帰れるかも分からない人たちの不安、わが子の様に守り育ててきた土を、豊かな恵みをもたらす海を奪われた人達。手塩にかけた作物を食べてもらう喜びを奪われた悲しみ。「ふくしま」と名がついただけで、多くの人たちに避けられてしまった悔しさ。さよならも言えず、友だちと分か

**薬害イレッサ訴訟 東京高裁不当判決**

11月15日東京高裁で薬害イレッサ東日本訴訟の判決がありました。判決は、国と企業の責任を認めた東京地裁一審判決を全部取り消し、一審原告の請求すべて棄却する不当判決でした。肺がん治療薬イレッサは承認からわずか半年で180人、2年半で575人、今年の3月までに825人も命を間質性肺炎という副作用で奪いました。日本でこれほどの副作用死被害を出した薬害事件はありません。東京高裁の判決内容は、承認前の副作用報告症例について、イレッサが確定的に「因果関係がある」状態であれば安全対策をとる義務は発生せず、「因果関係の可能性や疑いがある」程度なら安全対策の義務は発生しないと判断しています。この判断は誤りです。過去の多くの薬害事件は、企業と国が予防原則（薬害の発生、拡大を防ぐ）に基づいて、安全対策をとるべきことの必要性を示しており、薬事法もこのような考え方に立って改訂されてきました。この高裁判決のような考え方は薬害はなくならず、繰り返します。また将来の医薬品の安全対策にも禍根を残します。17日、原告団・弁護団は原告しました。国民の安全な医療を受ける権利のため闘う必要があります。みなさん、全面解決を勝ち取るまで頑張りましょう

練馬労連 副議長 薬剤師 千田恵美子

団体は、この投げられたボールを私たちが受け取り「なくせ原発」の声を全国の津々浦々に届ける番です。そのためには小異を捨てて大同につくことがたいせつなのです。」

年金者組合 栗原新蔵

れた子ども達の思いを、「子どもを守るため」に離ればなれに暮らさざるを得なくなった家族の疲れを。

いま、福島の人たちは立ち上がっています。

オープンングで浪江町の町長や飯館村の村長が国や東電に、体が震えるほどの怒りをぶつけました。

はじめ六千人の予定だった参加者が一万二千人にもなったのです。それも